

研究班番号【 46 】
英雄神話物語の特徴(日本編) 機能分析より

国語班: 渡名喜 甫純

Abstract

I was interested in Japanese hero myths, and used Propp's method of functional analysis to examine their characteristics. As a result, I found that the characteristics of historical texts such as the Kojiki and Nihon Shoki were prominent.
The next challenge is to secure the literature.

要約

日本の英雄神話に興味を持ち、プロップの機能分析という手法を用いてその特徴を考察した。その結果、文献となる古事記、日本書紀の歴史書の特徴が強く出たと考えられた。
文献の確保が今後の課題と考えられる。

1. はじめに

世界各国の神話を調べていると、現在最古の歴史書である古事記、日本書紀に描かれている物語である日本神話、中でも英雄神話に興味を持った。そこで物語の特徴を調べるという点で有用なプロップの機能分析という手法を用いてその特徴を考察した。

2. 研究手法

プロップの機能分析を用いる。
物語に共通して登場する行動や出来事を「機能」とし、物語に当てはめ、物語を体系的に理解しようとする分析方法である。

《調査》

文献に載っていた全ての日本英雄神話物語11個において出来事ごとに簡潔にまとめ、対応する機能を当てはめる。

以下今回の研究に用いる「機能」

- | | |
|-------------------|------------------|
| [0] 導入の状況(α) | [17] 標づけ(J) |
| [1] 留守もしくは閉じ込め(β) | [18] 勝利(I) |
| [2] 禁止(γ) | [19] 不幸・欠如の解消(K) |
| [3] 違反(δ) | [20] 帰還(↓) |
| [4] 探し出し(ε) | [21] 追跡(Pr) |
| [5] 情報漏洩(ζ) | [22] 救助(Rs) |
| [6] 謀略(η) | [23] 気づかれざる到着(O) |
| [7] 幫助(Θ) | [24] 不当な要求(L) |
| [8] 加害(A) | [25] 難題(M) |
| [8a] 欠如(a) | [26] 解決(N) |
| [9] 仲介或はつなぎの階段(B) | [27] 発見・認識(Q) |
| [10] 対抗開始(C) | [28] 正体露見(Ex) |
| [11] 出立(↑) | [29] 変身(T) |
| [12] 贈与者の第一の機能(D) | [30] 処罰(U) |
| [13] 主人公の反応(E) | [31] 結婚・即位(W) |
| [14] 呪具の贈与・獲得(F) | |
| [15] 二つの国の空間移動(G) | |
| [16] 闘い(H) | |

※(α)は「導入」、(a)は「欠如」として区別する

3. 結果

《調査》

機能[8] 加害(A) {物語が主人公を軸として始まるきっかけ}が起こるまでの契機である、機能[2]～[8]である $\beta \sim \theta$ の機能が少ない、 \downarrow, U, W の機能で物語が終わりその後に物語が続かないことが多いといった特徴が見られた(下表は一例)。

表：「倭建、出雲を伐つ。」(古事記より)の機能分類

「倭建、出雲を伐つ。」	機能		あらすじ
1	α	導入	都への帰路の最中倭建は出雲の豪傑出雲建を討ちとろうとする。
2	H	闘い	倭建は策を講じたうえで出雲建に挑む。
3	I	勝利	出雲建を伐ちとる。
4	K	不幸、欠如の解消	出雲を平定する。
5	\downarrow	帰還	倭建は都へ帰る。

4. 考察

西洋の英雄神話と比べると、相手視点の描写が少ない、帰還の最中のイベントが少なく、物語の目的(敵の討伐など)とその道のりを主体として書いている、といった、出来事の羅列が見られる歴史書としての面が強く見られたと考えられる。

5. 結論

相手視点の描写が少ない、物語のゴールまでの描写が多いといった特徴は見られたが文献が少なく全体の特徴を得ることが難しかった。今後の課題としては文献の確保や、人数を増やして調査からなるべく主観を抜くといったことが挙げられる。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

吉田 拓海, 村井 源(2020)「英雄神話物語の構造化に向けての物語特徴の抽出」『情報知識学会誌』情報知識学会[編]30巻,2号,p.270-275

福永 武彦(2003)『現代語訳 古事記』河出文庫

福永 武彦(2005)『現代語訳 日本書紀』河出文庫